

令和7年度林野庁九州森林管理局による調査事業の概要

(生息密度調査及び湿原におけるヤクシカの生態調査抜粋)

目次

1 事業の目的.....	2
2 調査項目.....	2
3 調査箇所等.....	3
4 調査内容.....	6
5 ヤクシカの捕獲.....	17

林野庁 九州森林管理局

1 事業の目的

屋久島には固有種をはじめとする多くの貴重な植物が生育している。また、海岸部の亜熱帯から山岳部の亜高山帯に及ぶ植生の典型的な垂直分布が見られ、特に西部地域における海岸部から国割岳(標高約 1,323m)に至る西側斜面の植生の垂直分布は、世界自然遺産登録の要因の一つとなっている。

近年、同島においてニホンジカの亜種にあたるヤクシカの生息頭数が増加しており、下層植生の食害に伴う希少種の消滅等が懸念されていることに加え、住民の生活圏内で農業被害等も頻発していることから、早急に対策を講じる必要がある。

このため、ヤクシカの生息・移動状況や被害の状況等を把握したうえで、森林の多様性の保全や国土保全等の観点から、屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカワーキンググループ(以下、ヤクシカ WG という。)の意見を踏まえつつ、森林生態系の管理目標に関する現状把握・現状評価等を行うとともに、植生の保護・再生方策、ヤクシカの個体数調整方策等を含むヤクシカに関する総合的な対策を検討する。

2 調査項目

次の事項について調査・検証を実施した。

(1) 生息密度調査

糞粒法(ベルトトランセクト法)によるヤクシカの生息密度調査(5箇所)

(2) 植生の保護・再生手法の検討

既存の植生保護柵及び萌芽保護柵の内外の植生調査(6箇所)、保守点検(23箇所)、植生及び被害度調査(5箇所)

(3) 森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価

下記の森林生態系の各管理目標について現状把握及び現状評価を実施

- ・屋久島の多雨環境を反映したシダ植物の林床被度の回復(6箇所)
- ・屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値である植生垂直分布を形成する植物種の多様性の回復(6箇所)
- ・ヤクシカの嗜好性植物種の更新(6箇所)
- ・絶滅のおそれのある固有植物種等の保全(本年度実施予定の希少種等の調査箇所)

(4) 湿原におけるヤクシカの生態調査

高標高域の湿原(花之江河・小花之江河)に自動撮影カメラを設置し、ヤクシカの生態を把握

3 調査箇所等

令和7年度の調査・検証等の項目別の調査箇所を図1に示す。また、糞粒調査及び植生調査等の過年度の実施状況を表1、図2に示す。令和7年度の調査箇所は、監督職員と協議して決定する。

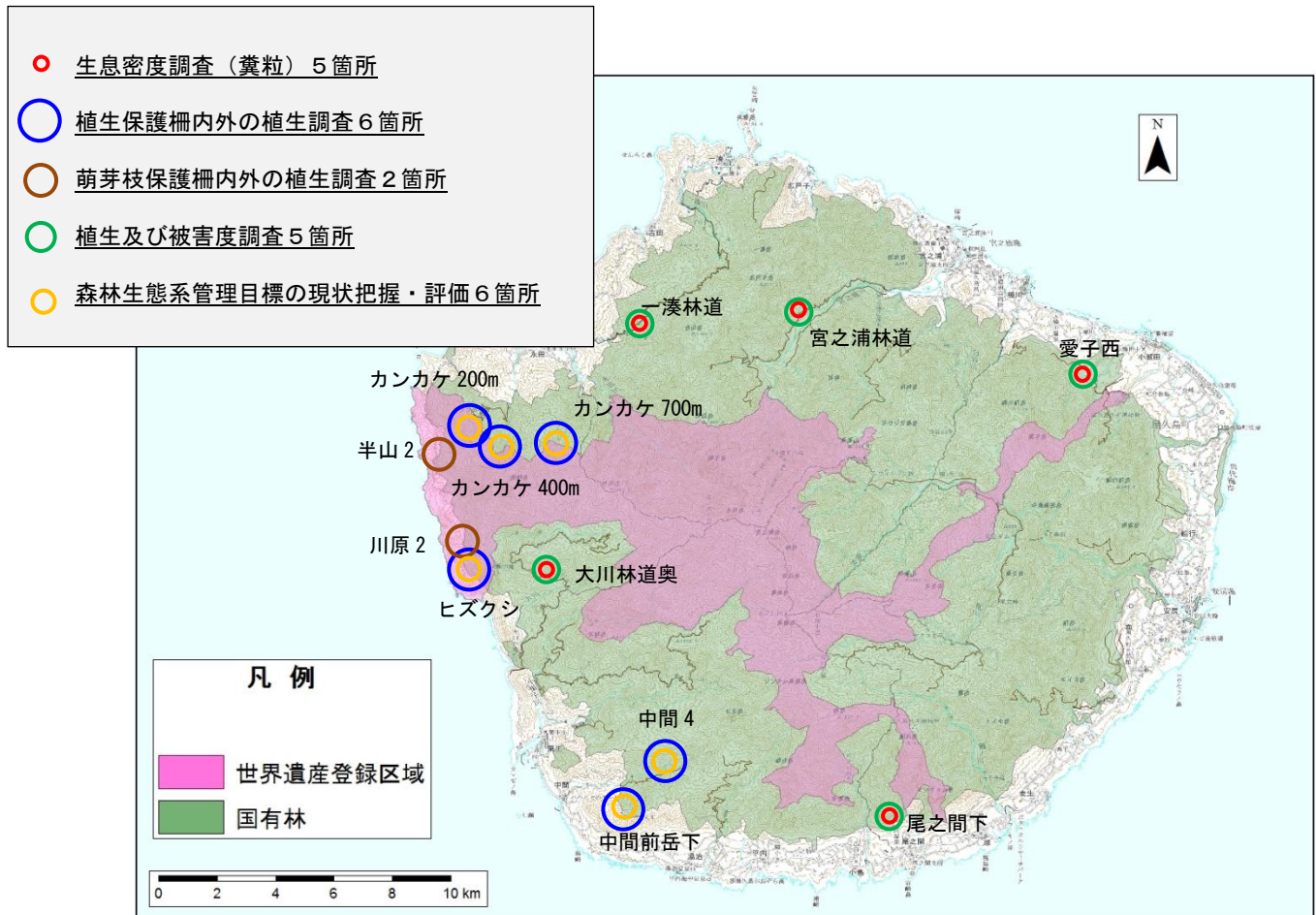


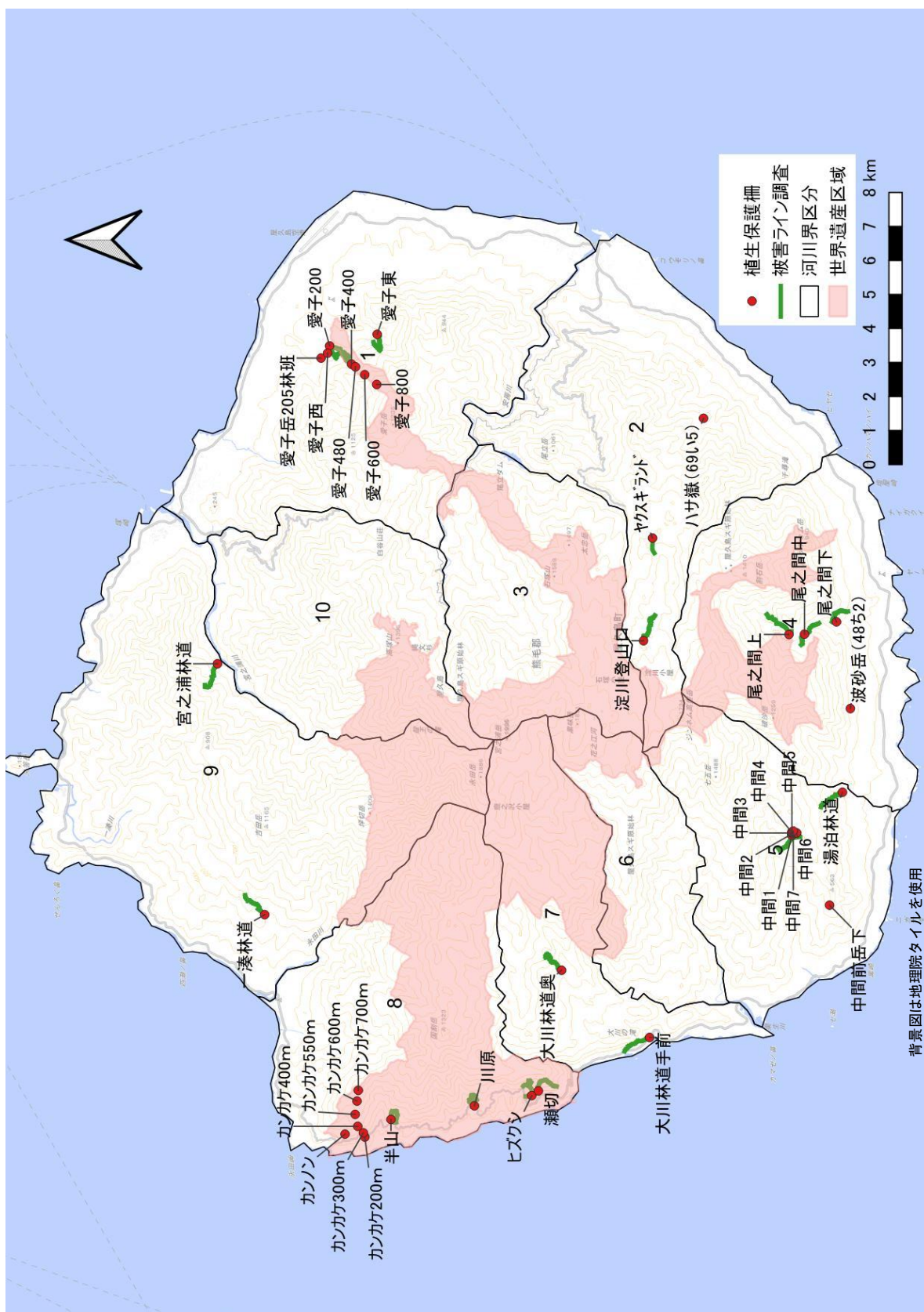
図1 令和7年度の調査・検証調査箇所

表1 糞粒調査及び植生調査等の実施状況

場所 (※:柵内外)	糞粒調査																	植生・毎木・被害ライン調査																	備考
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	H21	H22	H23	H24	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
205 林班※		◆																	○●									○					大型開いわな (R4 は概況調査)		
愛子西		◆	◆	□	□							□	□	□	□	□			○●○	○○	◎						◎	◎	◎	◎	◎			愛子西の被害ライン調査は愛子 200・400・480mを通過	
愛子 200m※																			○	○			○			○			○						
愛子 400m※																			○			○		○				○							
愛子 480m		◆																	○●																
愛子 600m※																											○			○			R2 より開始		
愛子 800m※																											○			○			R2 より開始		
愛子東		◆	◆	□		□	□	□	□	□	□								○●○	○○		◎	◎	◎	◎	◎	◎							小瀬田林道奥	
尾之間上	◆	◆																	○●	○●○															
尾之間中	◆	◆																	○●	○●○	○	○			○			○			○				
尾之間下	◆	◆	◆	□	□	□	□		□	□	□	□	□	□	□	□			○●	○●○	○○		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
湯泊林道			□	□		□														○●		◎													
中間前岳下 1※																			○●	○		○		○									R3 から管轄外		
中間前岳下 2※																			○●	○						○						○			
中間 1※			□		□														○●	○○	◎		○							○					
中間 2※																			○●	○						○									
中間 3※																			○●	○							○								
中間 4※																			○●	○					○						○				
中間 5※																			○●	○	○								○						
中間 6※																			○●	○						○									
中間 7※																			○●	○								○							
大川林道手前		□																	○●○																
大川林道奥		□	□			□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□			○●○	○○		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
瀬切			□	□																○●															
ヒズクシ※	◆	◆	◆□	□	□			□									○	○●	○●	○○	○○		○	○○				○				○			
川原	◆	◆	◆□														○	○●		○○															
半山	◆	◆	◆□			□											○	○●		○○															
カンカケ 200m※																			○●	○			○			○						○			
カンカケ 300m※																			○●	○						○			○						
カンカケ 400m※																			○●	○					○			○				○			
カンカケ 550m※																			○●	○						○	○			○					
カンカケ 600m※																			○●	○							○			○					
カンカケ 700m※	◆																	○●	○●	○		○			○	○		○			○				
カンノン※																			○●	○		○						○			○				
一渡林道		□	□		□		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□			○●○	○○	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	永田集落側	
宮之浦林道		□	□		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□			○●○	○○	捕獲	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
ヤクスギランド				□																															
淀川登山口				□	□	□															◎	◎													
波砂岳 48 ち 2※																											○			○			R2 より開始		
ハサ嶽 69 い 5※																											○			○			R2 より開始		

【凡例】 糞粒調査・・◆糞粒（方形）調査、□糞粒（ライン） 調査保護柵内外での植生等調査・・○植生（低木・稚樹）調査、●毎木調査、◎被害ライン調査

（注）平成 23 年度の被害ライン調査（◎）は、平成 24 年度とは調査手法が異なる。また平成 21・22 年度についても被害ライン調査が実施されているが、かなり手法が異なるので本表では 23 年度から記載。



4 調査内容

(1) ヤクシカの生息密度のモニタリング調査

ヤクシカの生息密度を把握するため、本年度は糞粒法を用いた調査を、大川林道奥(大川上)、尾之間下、一湊林道、宮之浦林道、愛子西で実施した。さらに糞粒調査結果を基に、シカ密度推定プログラム「FUNRYU ver1.2」を用いて、各調査地のヤクシカ生息密度の推定を行った。結果を図3に示す。

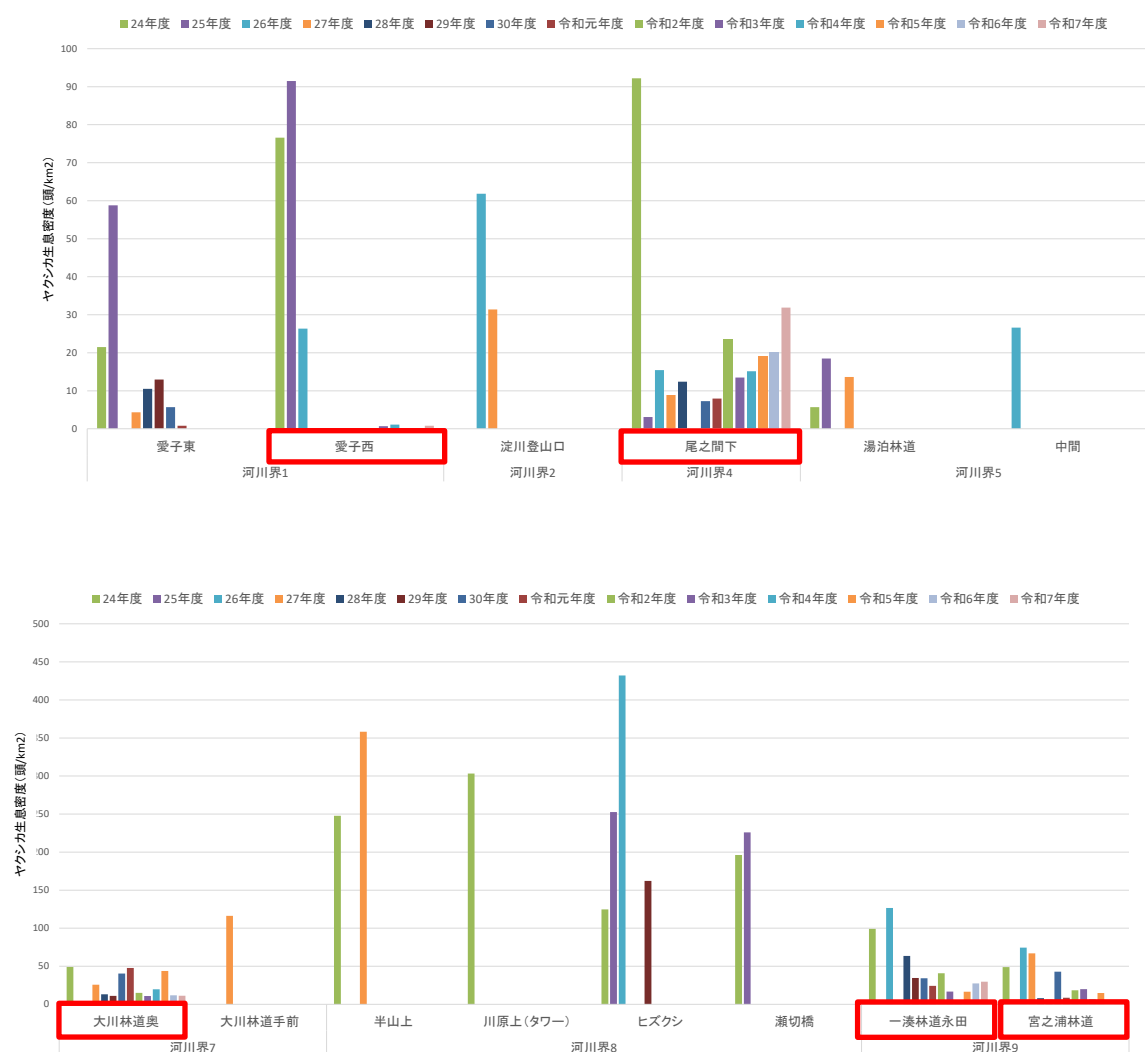


図3 平成24年度から令和7年度の推定生息密度の変化(赤枠が令和7年度実施箇所)

河川界区分1の愛子西は、令和4年度には微増がみられたが、令和5年度、令和6年度と2年連続で糞粒が検出されず、本年度は3年ぶりに糞粒の確認があった(0.0

頭/㎢→0.8 頭/㎢)。1 区画のみと少なく、引き続き低密度を保持している(遠方でシカの声を確認)。平成 24 年度に「屋久島国有林におけるシカ対策推進協定」が結ばれて以降、捕獲圧が高まり、推定生息密度が低下したことで周辺植生の回復は著しい。このため、シカの侵入を許すと食害が増加する懸念があり注視する必要がある。

河川界区分4の尾之間下では、平成 25 年度から比較的、低密度で維持されてきた。これは継続的な有害鳥獣捕獲や電気柵設置の効果と考えられるが、本年度で4年連続の増加がみられており(20.2 頭/㎢→31.9 頭/㎢)、今後の推移に注視する必要がある。

河川界区分7の大川林道奥は、平成 24 年度から 40～50 頭/㎢と 10～20 頭/㎢の間で不規則に変動している(平成 25、26 年度は未調査)。これまで 10 頭/㎢を割り込んだことはなく、林道でもシカに遭遇する機会が多い。この地域は平成 27 年度から 10 年連続で捕獲事業が行われており、昨年度は 29 頭を捕獲し、推定密度は 2 年連続で僅かに減少した(11.8 頭/㎢→11.3 頭/㎢)。

河川界区分9の一湊林道は、平成 26 年度をピークに推定密度が減少傾向にあり、令和 4 年度に最も少ない推定密度を記録した。その後再び増加に転じ、本年度は 3 年連続で増加した(27.5 頭/㎢→29.7 頭/㎢)。増加要因としては、県実行指定管理鳥獣捕獲(令和 4 年度、捕獲頭数 38 頭)や協定捕獲(令和 5 年度、同 12 頭)が行われており、昨年度は 16 頭を捕獲し、シカの移動も多くなったことが推測され、警戒心の強い個体の出現・繁殖や、他地域からの流入が継続している可能性がある。

同じ河川界区分に入る宮之浦林道では、昨年度の調査では糞粒が確認されず、本年度の調査も極めて少ない推定密度を記録した(0.0 頭/㎢→5.0 頭/㎢)。この地域では平成 26 年度をピークに、不規則に上下動を繰り返しながら、推定密度は減少傾向がみられる。これは令和 4 年度の 1 年間だけ捕獲を休止したのを除き、継続的に行われている捕獲の効果が表れたものと考えられる。

(参考)本年度の捕獲場所

屋久島森林管理署(職員実行):鍋山林道(南東部)

屋久島森林生態系保全センター(職員実行):船行林道(北東部)

捕獲委託事業:大川林道(南西部)、小楊子林道、小楊子林道栗生支線(南西部)、中間林道(南西部)

被害対策協定:第二小瀬田林道(北東部)、白谷林道・白谷 220 支線(中央部)、梣川林道(北東部)、中瀬川林道(南東部)、小楊子林道栗生支線(南西部)、一湊林道(北部)、湯泊林道(南部)、宮之浦林道 233 支線(中央部)、宮之浦林道 234 支線(北部)

環境省:カンカケ林道(西部)、西部林道(西部)

鹿児島県:中瀬川林道(南東部)、鍋山林道(南東部)

(2) 植生の保護・再生手法の検討

資料 3－2 参照

(3) 森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価

資料 3－1 参照

(4) 湿原におけるヤクシカの生態調査（調査集計中）

① 調査内容

花之江河・小花之江河におけるヤクシカの生態を把握するため、自動撮影調査と糞塊調査を実施した。

自動撮影調査については、自動撮影カメラ 10 台を 20 週間以上設置し（図 5、表 2）、得られた撮影データの分析を行った。分析の際、15 分以内に撮影された同種個体は明らかに別個体であると識別できない限り同一個体として整理した。また、ヤクシカについては性齢も判別して整理した。

糞塊調査については、カメラ設置と点検・回収の際に実施した。湿原内の冠水状況と植生状況から区分された区画（花之江河 33 区画、小花之江河 22 区画）ごとに糞塊数を計数し、利用密度分布図を作成した。

なお、自動撮影カメラで撮影した画像の分析については、集計途中であり、1 回目のデータ回収日である 10 月 15 日までの分を報告する。

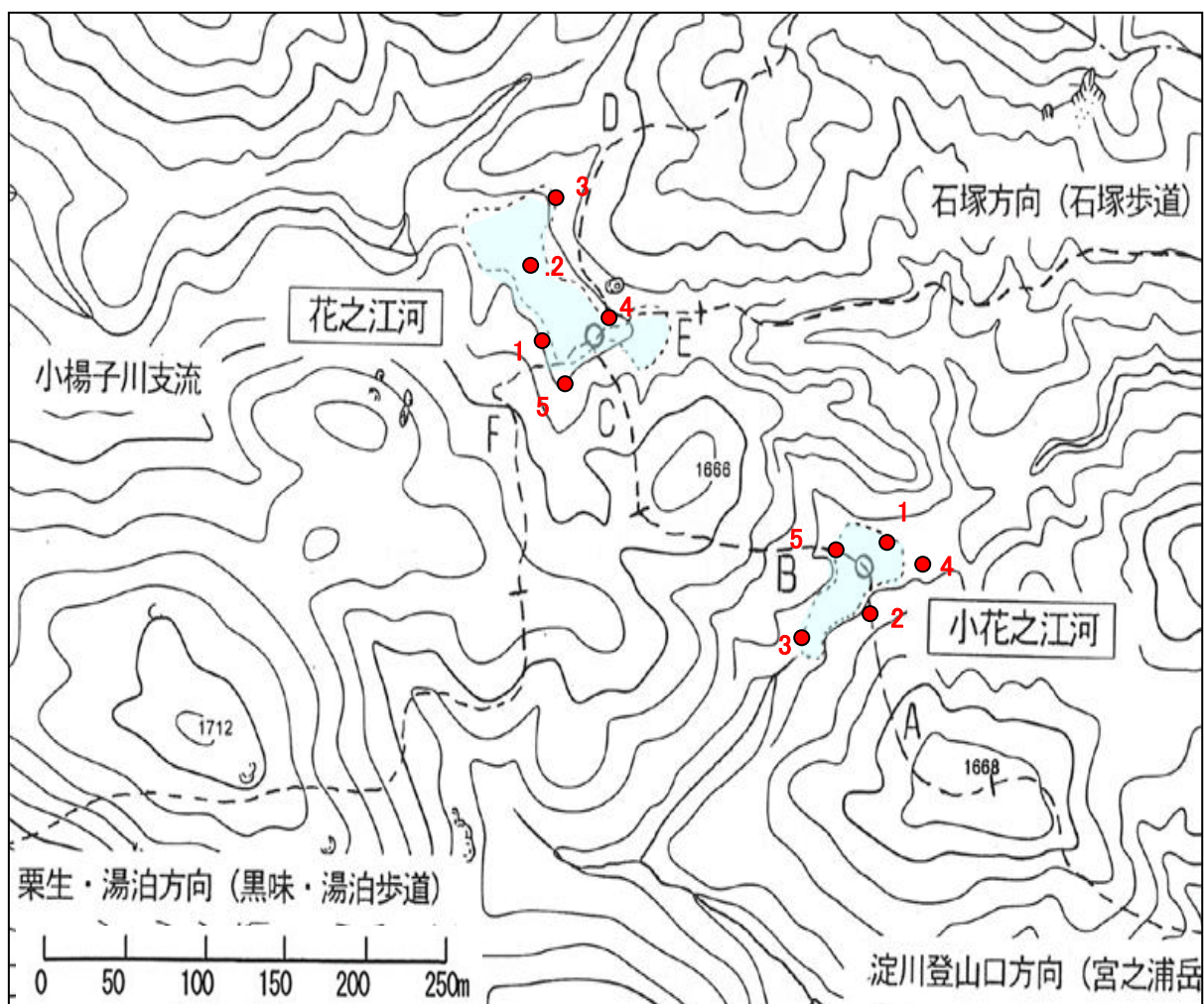


図5 湿原におけるカメラ設置位置

表2 花之江河・小花之江河における自動撮影カメラの設置状況

花之江河			小花之江河		
カメラNo.	設置期間	備考	カメラNo.	設置期間	備考
花之江河1	R7. 8. 25～	ヤクシカの糞塊の多いミズゴケ域に設置	小花之江河1	R7. 8. 25～	ヤクシカの糞塊の多いミズゴケ群落に設置
花之江河2	R7. 8. 25～	ヤクシカの糞塊の多いミズゴケ域に設置	小花之江河2	R7. 8. 25～	ヤクシカの糞塊が見られるコハリスゲ・ハリコウガイゼキショウ群落の半冠水域に設置
花之江河3	R7. 8. 25～	ヤクシカの糞塊の多いミズゴケ域に設置	小花之江河3	R7. 8. 25～	ヤクシカの糞塊の多いミズゴケ群落に設置
花之江河4	R7. 8. 25～	水路が分岐する、ヤクシカの糞塊が多い降水時冠水域に設置	小花之江河4	R7. 8. 25～	糞塊が見られない常時冠水域に設置
花之江河5	R7. 8. 25～	水路を含むハリコウガイゼキショウ域に設置	小花之江河5	R7. 8. 25～	糞塊が見られる植生保護柵脇の降雨時冠水～低木域に設置

②調査結果

〔自動撮影調査〕

花之江河・小花之江河における自動撮影調査の結果を示す（表 3～4）。また、花之江河 3、5 が機器不良で撮影できなかったほか、小花之江河 3 は日中、何らかの原因により画角が途中で変更したり、蓋の開閉が生じた。ただし発生後も動物撮影に支障がなかったため、そのまま集計した。

表 3 花之江河における動物撮影結果

カメラNo.	撮影期間	合計稼働日数	確認種	撮影頭数	ヤクシカ内訳					頭/100日
					雄成獣	雌成獣	性不明成獣	幼獣	性齢不明	
花之江河1	R7.8/25 - 10/15	52	ヤクシカ	4	4					7.7
			ヤクシマザル	190						365.4
花之江河2	R7.8/25 - 10/15	52	ヤクシカ	9	2	2	2	1	2	17.3
			ヤクシマザル	240						461.5
花之江河3	R7.8/25 - 9/16	23	ヤクシカ	1					1	4.3
			ヤクシマザル	21						91.3
花之江河4	R7.8/25 - 10/15	52	ヤクシカ	2				1	1	3.8
			ヤクシマザル	207						398.1
			タヌキ	1						1.9
花之江河5	R7.8/25 - 9/1	8	ヤクシマザル	6						75.0
R7 花之江河全体 (鳥類を除く)	R7.8/25 - 10/15	187	ヤクシカ	16	6	2	2	2	4	8.6
			ヤクシマザル	664						355.1
			タヌキ	1						0.5
R6 花之江河全体 (鳥類を除く)	R6.8/18 - R7.1/19	706	ヤクシカ	58	16	20	8	11	3	8.2
			ヤクシマザル	43						6.1
			タヌキ	3						0.4
R5 花之江河全体 (鳥類を除く)	R5.8/28 - R6.1/30	613	ヤクシカ	59	38	12	1	7	1	9.6
			ヤクシマザル	446						72.8
			タヌキ	9						1.5

花之江河全体について、100 日あたりの撮影頭数を昨年度と比較すると、ヤクシカは 0.4 頭/100 日とわずかに増加した。ヤクシカの性齢の内訳を見ると、昨年度と異なり雄成獣の撮影割合が高くなった。また、ヤクシマザルの撮影頭数は昨年度の 58 倍と大きく増加した。国内外来種であるタヌキは昨年度と変わらない状況で確認され、コイタチについてはこれまで確認されていない。

表4 小花之江河における動物撮影結果

カメラNo.	撮影期間	合計 稼働日数	確認種	撮影 頭数	ヤクシカ内訳					頭/100日
					雄成獣	雌成獣	性不明成獣	幼獣	性齢不明	
小花之江河1	R7.8/25 - 10/15	52	ヤクシカ	22	10	6	3	3		42.3
			ヤクシマザル	143						275.0
			タヌキ	14						26.9
小花之江河2	R7.8/25 - 10/15	52	ヤクシカ	14	5	5		4		26.9
			ヤクシマザル	42						80.8
			タヌキ	1						1.9
小花之江河3	R7.8/25 - 10/15	52	ヤクシカ	19	10	5		4		36.5
			ヤクシマザル	98						188.5
			タヌキ	4						7.7
			ニホンヒキガエル	2						3.8
小花之江河4	R7.8/25 - 10/15	52	ヤクシカ	2	1				1	3.8
			ヤクシマザル	3						5.8
小花之江河5	R7.8/25 - 10/15	52	ヤクシカ	19	5	6	1	6	1	36.5
			ヤクシマザル	126						242.3
			タヌキ	2						3.8
R7 小花之江河全体 (鳥類を除く)	R7.8/25 - 10/15	260	ヤクシカ	76	31	22	4	17	2	29.2
			ヤクシマザル	412						158.5
			タヌキ	21						8.1
			ニホンヒキガエル	2						0.8
R6 小花之江河全体 (鳥類を除く)	R6.8/18 - R7.1/19	628	ヤクシカ	44	16	13	6	5	3	7.0
			ヤクシマザル	15						2.4
			タヌキ	2						0.3
R5 小花之江河全体 (鳥類を除く)	R5.8/28 - R6.1/30	717	ヤクシカ	68	16	17		25	5	9.5
			ヤクシマザル	100						13.9
			タヌキ	3						0.4

小花之江河全体について、100日あたりの撮影頭数を昨年度と比較すると、ヤクシカは昨年度の4倍程度に増加した。ヤクシカの性齢の内訳を見ると、花之江河と同様、雄成獣の割合が増加している状況であった。また、ヤクシマザルの撮影頭数は昨年度の66倍と大きく増加した。国内外来種であるタヌキは、昨年度の27倍に増加した。コイタチについてはこれまで確認されていない。

撮影個体の行動については、移動、休息、探餌・採餌、カメラへの干渉等の状況が確認された。以下に花之江河・小花之江河において撮影された画像の一部を示す(写真1～2)。

	
① 【No.2】 単独で活動する雌の成獣	② 【No.2】 夕刻に出現した雄の成獣（3 尖）
	
③ 【No.2】 登山客の前でくつろぐヤクシカ、ヤクシマザル	④ 【No.1】 カメラに干渉するヤクシマザル
	
⑤ 【No.2】 等間隔で毛繕いするヤクシマザル（円内）	⑥ 【No.4】 移動するタヌキ（円内）

写真 1 花之江河における自動撮影カメラの撮影結果(夏季～秋季)

	
⑦【No.5】雌雄の成獣と幼獣の3個体	⑧【No.4】雨天時に採餌する母集団の3個体
	
⑨【No.5】柵に乗り上がるヤクシマザル	⑩【No.5】カメラに干渉するヤクシマザル
	
⑪【No.3】カメラ前を通過するタヌキ2個体	⑫【No.5】柵に留まるオオコノハズク（左端）

写真2 小花之江河における自動撮影カメラの撮影結果(夏季～秋季)

[糞塊調査]

令和 7 年 8 月 25 日に実施した調査結果を昨年度の令和 6 年 8 月 18 日の結果と比較した（表 5～6、図 3～6）。過年度と同様に、糞塊数は花之江河の方が小花之江河より多かった。花之江河では糞塊箇所数は増加したが、糞塊数は減少し、小花之江河では糞塊箇所数に変化はなく、糞塊数はわずかに増加した。糞塊数の合計を 100 m²あたりの密度でみると、花之江河、小花之江河とも昨年度とほとんど変化がなかった。本年度は調査した 8 月 25 日の前に、突然発生した台風 12 号（台風変化前）による降雨が 3 日間あったが、昨年と変わらない猛暑が続き、昨年同様に湿原でのシカの活動が低下したことで、糞塊数が減少したと考えられる。

表 5 花之江河の糞塊調査結果

花之江河			ヤクシカ糞塊数			
No.	冠水・植生状況	面積 ㎡	R6.8.18		R7.8.25	
			塊	塊/100㎡	塊	塊/100㎡
No.1	ミズゴケ群落	38.1	0	0.0	0	0.0
No.2	ミズゴケ群落	104.9	0	0.0	0	0.0
No.3	常時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	209.8	0	0.0	0	0.0
No.4	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	52.4	0	0.0	0	0.0
No.5	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	85.8	0	0.0	0	0.0
No.6	ミズゴケ群落	171.7	0	0.0	0	0.0
No.7	ミズゴケ群落	100.1	0	0.0	0	0.0
No.8	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	66.8	0	0.0	0	0.0
No.9	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	238.4	0	0.0	1	0.4
No.10	ミズゴケ群落	47.7	2	4.2	1	2.1
No.11	ミズゴケ群落	100.1	0	0.0	0	0.0
No.12	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	233.6	0	0.0	0	0.0
No.13	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	85.8	0	0.0	0	0.0
No.14	ミズゴケ群落	109.7	0	0.0	0	0.0
No.15	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	262.2	2	0.8	2	0.8
No.16	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	104.9	0	0.0	1	1.0
No.17	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	109.7	0	0.0	0	0.0
No.18	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	176.4	0	0.0	0	0.0
No.19	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	557.9	0	0.0	0	0.0
No.20	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	348.1	6	1.7	2	0.6
No.21	ミズゴケ群落	47.7	0	0.0	1	2.1
No.22	ミズゴケ群落	181.2	0	0.0	0	0.0
No.23	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	200.3	4	2.0	0	0.0
No.24	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	42.9	0	0.0	2	4.7
No.25	ミズゴケ群落	38.1	0	0.0	1	2.6
No.26	ミズゴケ群落	28.6	1	3.5	0	0.0
No.27	ミズゴケ群落	33.4	0	0.0	0	0.0
No.28	ミズゴケ群落	47.7	0	0.0	0	0.0
No.29	ミズゴケ群落	186	0	0.0	0	0.0
No.30	ミズゴケ群落	109.7	0	0.0	0	0.0
No.31	ミズゴケ群落・低木群落	76.3	0	0.0	0	0.0
No.32	ミズゴケ群落・低木群落	42.9	0	0.0	0	0.0
No.33	ミズゴケ群落・低木群落	104.9	0	0.0	0	0.0
計		4343.8	15	0.3	11	0.3

表 6 小花之江河の糞塊調査結果

小花之江河			ヤクシカ糞塊数			
No.	冠水・植生状況	面積 ㎡	R6.8.18		R7.8.25	
			塊	塊/100㎡	塊	塊/100㎡
No.1	ミズゴケ群落	79.2	0	0.0	0	0.0
No.2	ミズゴケ群落・低木群落	69.7	1	1.4	2	2.9
No.3	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	88.7	0	0.0	0	0.0
No.4	常時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	237.7	0	0.0	0	0.0
No.5	常時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	114.1	0	0.0	0	0.0
No.6	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	278.9	0	0.0	0	0.0
No.7	常時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	69.7	0	0.0	0	0.0
No.8	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	101.4	0	0.0	0	0.0
No.9	常時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	22.2	0	0.0	0	0.0
No.10	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	69.7	0	0.0	0	0.0
No.11	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	15.8	0	0.0	0	0.0
No.12	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	31.7	0	0.0	0	0.0
No.13	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	117.2	0	0.0	0	0.0
No.14	降水時冠水域(ミズゴケ群落・土砂堆積地)	244.0	0	0.0	0	0.0
No.15	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	19.0	0	0.0	0	0.0
No.16	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	12.7	0	0.0	0	0.0
No.17	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	285.2	0	0.0	0	0.0
No.18	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	50.7	0	0.0	0	0.0
No.19	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	15.8	0	0.0	0	0.0
No.20	降水時冠水域(コハリスゲ・ハロウガイゼキショウ群落)	155.3	0	0.0	0	0.0
No.21	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	22.2	0	0.0	0	0.0
No.22	降水時冠水域(ミズゴケ群落)	19.0	0	0.0	0	0.0
計		2119.9	1	0.0	2	0.1

注) 表中の網掛けは塊/100 ㎡あたり  : 0.1~0.9  : 1.0~1.9  : 2.0~

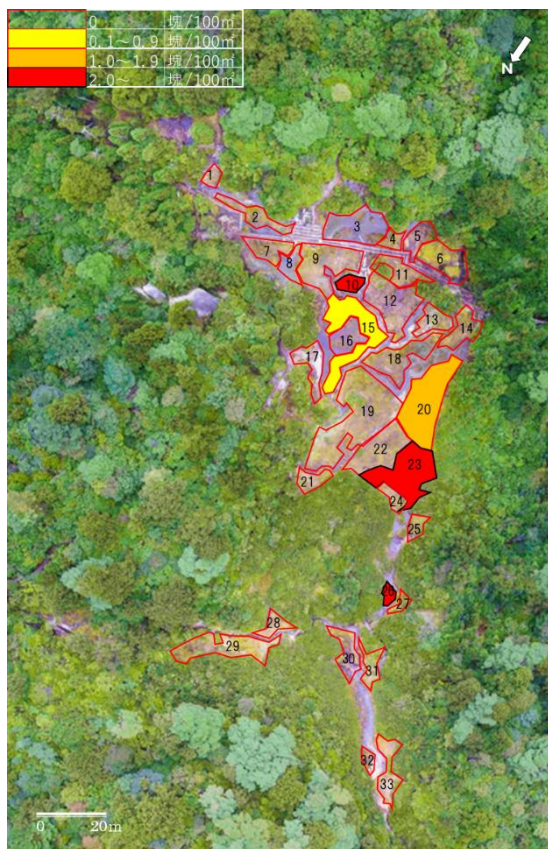


図 3 花之江河の糞塊調査結果 (R6.8.18)

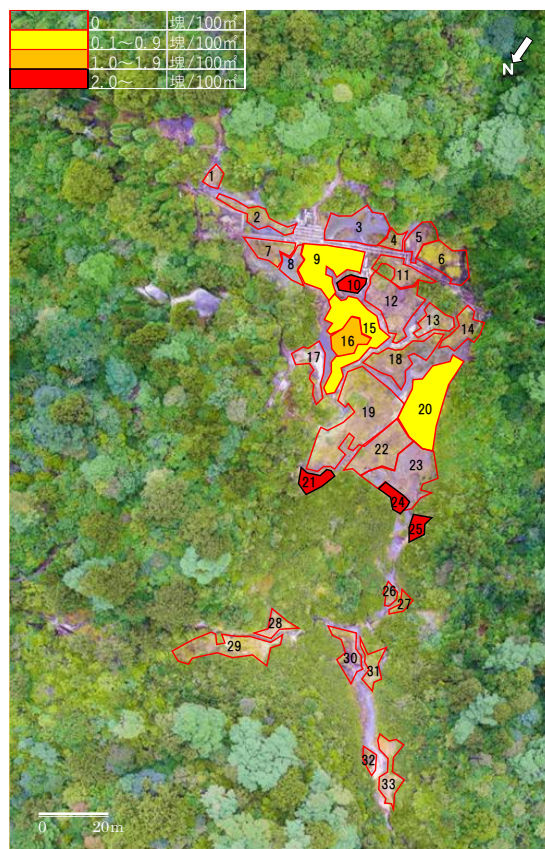


図 4 花之江河の糞塊調査結果 (R7.8.25)

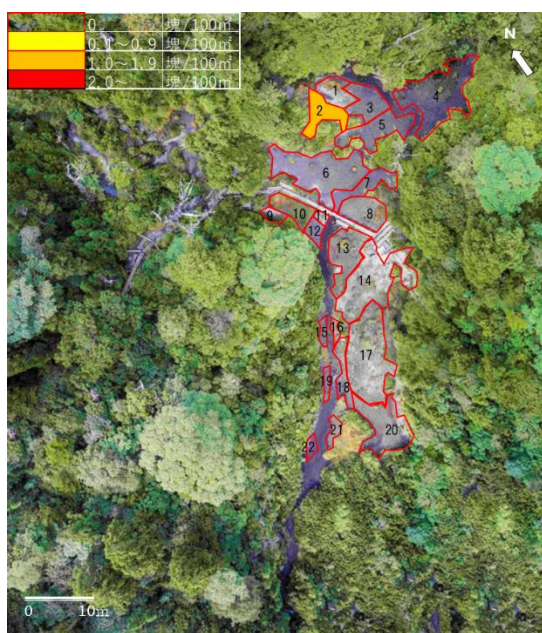


図 5 小花之江河の糞塊調査結果 (R6.8.18)

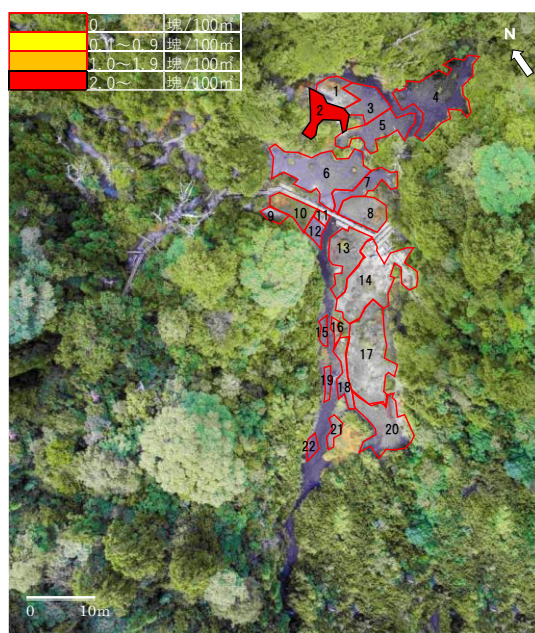


図 6 小花之江河の糞塊調査結果 (R7.8.25)

5 ヤクシカの捕獲

(1) 捕獲期間及び捕獲場所

令和7年8月28日、中間林道においてくくりわな20基を設置し、その後七五岳40林道を含めて適宜掛け替えを行い、9月27日にはすべてのわなを撤去した。

(2) 捕獲結果

誘引にはすべて天然の植物（イヌビワ、シャリンバイ、ウラジロエノキ）を使用し、適宜交換又は追加した。捕獲結果を表7に示す。

表7 ヤクシカの捕獲内訳

捕獲頭数（頭）					稼働日数	延べ わな数	捕獲効率 （CPUE）
合計	雄		雌				
	成獣	幼獣	成獣	幼獣			
11	3	2	1	5	31	620	0.01774

（参考）R6 ヤクシカ WG 資料 R6 国有林 CPUE 0.01031